

薩摩川内市職員人材育成基本方針(平成27年4月改訂版)の概要

《「平成27年4月改訂版」のポイント》

薩摩川内市は、平成27年4月に「薩摩川内市職員人材育成基本方針」を改訂しました。ポイントは右記のとおりです。

1. 目指すべき職員像に向けたキーワードの見直し
2. 職員に求められる役割と能力の見直し
3. 「女性が輝く人材育成」をより積極的に推進します
4. 今後の人材育成の取組を6つに体系化しました

改訂の背景

【財政運営プログラムから見た厳しい財政状況】

- 歳出構造の見直し、交付税総額の減少等

【定員適正化方針による職員数の減少】

- 平成32年には職員数1,000人以内、職員が減少する中での業務効率化

【国指針等の変更】

- 地方公務員制度改革、第3次男女共同参画基本計画等

1. 目指すべき職員像に向けたキーワードの見直し

前方針における目指すべき職員のキーワード

市民志向

自立

創造挑戦

経営

見直し

2. 職員に求められる役割と能力の見直し

- 職員に職位別に求められる役割、能力を精査、提示した
- 本市人事評価制度における「職務行動評価」、国における「標準職務遂行能力」を参考に策定した

3. 「女性が輝く人材育成」をより積極的に推進します

- すべての女性が活躍できる職場づくりを目指し、重点的に取り組みます
- 政府目標の「2020年に指導的地位に女性が占める割合を30%程度にする」という目標を考慮し、取組を進めて参ります

◇◆目指すべき職員像◇◆

「薩摩川内市を愛し、市民本位のサービス改革に果敢に挑戦する職員」

平成18年度の人材育成基本方針の策定より、一貫して「薩摩川内市を愛し、市民本位のサービス改革に果敢に挑戦する職員」を目指して取り組んでまいりました。この理念はこれからも引き続き持ち続けるべきであり、今後も継続してまいります

市民志向

《常に市民の視点に立ち、親切・丁寧な姿勢で接し、地域のために市民と協働する職員》

創造・挑戦

《薩摩川内市の未来のために、時代を切り開く創造性、チャレンジ精神に溢れる職員》

使命感・プロ意識

《薩摩川内市の発展を目指すという使命感に燃え、プロ意識をもった職員》

経営

《職員一人一人が経営感覚を持ち、コスト・スピード意識に富んだ職員》

コンプライアンス

《法令を遵守し、公務員としての自覚を持つ職員》

4. 今後の人材育成への具体的な取組について — 今後取り組むべき6つの分野について —

今後の人材育成への取組について6つの分野に分類しました。その分野ごとに具体的な目標をそれぞれ設定し、実現に向けて取り組んで参ります。

1 職員研修

- 階層別に必要な能力に必要な各種研修の充実
- 新規採用職員サポーター制度のさらなる充実
- OJT、Off-JTの積極的な促進
- 自己の資質向上、能力開発を目的とした研修参加・資格取得への支援
- 女性職員のキャリアアップに向けた各種研修参加への積極的な推進

2 職員採用

- 多くの受験生確保のために採用試験の周知広報の強化
- 経験を重視し、受験資格に年齢を配慮した試験制度設計の推進
- 再任用職員、任期付職員採用制度の活用
- 面接試験における集団討論などの面接方式の検討
- 優秀な人材確保のための採用試験の実施時期・回数増の検討
- 身体障害者の採用のための環境整備の実施
- 新規採用職員における女性職員比率の増加

3 人事異動

- 組織機構の在り方と連動した組織活性化が得られる人事異動の実施
- 職員の知識・技術を踏まえ、職種間の異動を実施
- 職員のチャレンジ精神と能力を最大限に活用できる仕組みの検討
- 重要政策や多様化する行政課題に対応できるスペシャリストの養成
- 女性幹部登用率の上昇

4 人事評価制度

- 公正公平な人事評価制度の確立
- 能力及び勤務実績に基づく人事管理の徹底
- 人事評価を適正に給与に反映する制度の確立

5 賞罰制度

- コンプライアンス重視の制度を導入
- ヒューマンエラー防止対策(マニュアル等整備)の実施
- 資格取得等の職員表彰に対して勤勉手当や昇給への反映を検討
- リスクマネジメントに対する意識向上に向けた取組強化
- 職場復帰、再教育制度の検討

6 職場環境

- 仕事と生活の調和(ワークライフバランス)※の推進
- 職場風土改善に向けた取組
- 良好な職場環境づくりのための主管部長、主管課長による個別面談の実施
- 職場診断アンケートの実施と公表
- 子育てを行う女性職員等の活躍に向けた各種取組の充実
- ノー残業デーの強化、徹底
- 休暇の取得義務化の検討
- メンタルヘルス対策について見直しと新たな取組の検討

※仕事と生活の調和(ワークライフバランス)

国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できること